

令和元年9月1日 信者心の道勉強会

神 示

「教え」を学び 「真理」に生きる信者を目指す時^{時代}

「道の真理」を学び 「人生」の支えに生きるほど

「実体」は引き上げられて

「運命」に重なる人生が歩める

精神世界を常に意識し

神魂に包まれる心の姿を探究するほど

「心」は安定し 「道」欠くこと^{人生}がなくなる

得徳^{えとく}――

「実体」を修正する意識が

品性を高め 「人生」を開運へと導く力^{存在}となる

信者に申す

「導神心」^{どうしんしんこう} 「心導心」^{しんどうしんこう}

神の教えを学び、真理に沿って生きられるように、努力することが大切です。

神の教えとは、神、仏、人の道、道の真理です。道を守って暮らすところに、希望の光^{みち}が通って救われます。道を守れば光^{みち}が通る、それが神魂の時代です。

道の真理を自分の人生の軸に据えて生きると、実体が高く引き上げられていきます。実体が高くなるほど、それだけ運命に重なる良い生き方ができるようになります。

神の教えとは、道の真理、表現を換えれば万物との関係を滑らかにする教えです。神から教えを学び、真理を自身の生き方に取り入れるほど、物事の受け止め方、感じ方、考え方が変わり、運命に重なる人生が歩めるようになります。

運命に重なり、運命に導かれた生き方とは、自身の分、器からこぼれない毎日です。持つて生まれた分、器に合った生き方であれば、与えられた良いものごとくどん出てきます。

人の正体は、無形の魂です。物や形

徳積みがかなうのです。それが希望の光^{みち}の通る心の質感です。

希望の光^{みち}が通る人は、公共性の高い生き方をします。この場ではどうするべきか、的確に判断できます。そのような心が、導神心です。神や仏をはじめ、精神世界を大切に思う思いが、心導心です。自身を超えた大きな世界があることを認識した心です。そこには、謙虚で礼を尽くした生き方ができてきます。そうした導神心、心導心が、実体を修正し、開運を早めていきます。

神の教えに生きるのは、決して難しいことではありません。しかし、難しく捉える人が多いから、神はあえて難しいこととは何もないと表されています。

家族一人一人が教えを学び、正しい関わり方を心掛けることです。そこに、自然と物や形にこだわらない、精神世界を大切にしたい思いが育っていきます。神の心に近づきます。家族それぞれがそのよな心になるところに、その家の開運がかなうのです。

共に開運人生手にするために

人^{人間}誰もが悟り 実践すべき得徳につながる

難しいことは何もない

「教え」を家族で学び 「真理」に生きて

家族一人一人が正しい関わりを知って

日々^{にちじち}生きること

自然と家族の心は重なり始め 神の心に近づく

「開運」手にする人^{人間}の姿が ここにある

↙のある世界に生きていても、重要なのは精神世界です。自分の心が健康か、不健康かを常に意識することです。神魂のご守護の中、希望の光^{みち}が通った心であれば、いつも気持ち安定しているものです。安定しているから、道を欠くような心の動きもないのです。

言い換えるなら、実体を修正する努力が必要です。教えで生き方を高めていく

のです。繰り返し教えを学び、真理に生かされるように努力です。精神世界を意識して、実体を修正していこうとする思いが、自身の人柄、人格を磨き、人生を開運へと導く力となっていきます。

そのような人は、得徳がかないます。周りに良い影響を与える人徳があり、そこにだけ人が寄ってきます。人に求められます。自身の存在を生かして、

令和元年9月15日 信者心の道勉強会

神 示

運命実体で回る この世の仕組みを知った今今日

人間としてなすべきことは何か

「教え」を学び 祈願を重ねて

「えとく得徳の真理」に生きたる人人間を目指す

この思い信念が深まるほど 人間は

人 物との出会いを求め 深めることに 思いが向かう

人間は 愛を求めて生きるもの存在

なれど 愛の姿真実が分からず 生きている

信者に申す

家族で「教え」を学び

「しんり真理」に生きる家庭を 神に願ひ求めてごらん

自然と家族の心は重なり 愛の姿が形となってゆく

親は子に 無償の愛で触れ合う

「しんり教え」に生きるなら 自然と芽生える心愛

見返りを求めない心の触れ合いに

人人間の心は安心 自信を感じ 深める

「しんり教え」に生きて 「みち道」に沿う人生を歩むなら

人間は誰もが 家族 縁者の愛を得て

多くの人人々の心を 愛に染める人存在と成る

「えとく得徳の真理」に気付く 悟りを深め

人間はそれぞれに

神の手中 「じんせい人生」を完成させてゆく

↓を指すのです。

人は、自分自身がかわいければ、相手もまた自分のことがかわいいものです。自己愛が強いのです。ですから、自己愛と他者愛の調和を取り、真実の愛に生きる人を目指すのです。真実の愛は、お互

いさまの感覚です。

その信念ができるほど、人、物との出会いを大切に、深めることに思いが向きます。人は、誰も愛を求めます。一人では生きられません。しかし、愛のかけ方が分からない人が多いのです。愛をかけ

世の中では、努力すれば、政治が良くなれば、福祉が充実すれば、それで社会は良くなると、思い込んでいる傾向があります。しかし、そのようなことはありません。歴史を見ても分かるように、全て栄枯盛衰を繰り返します。

この世は、運命実体で回っています。運命とは、神から与えられた世に役立つ力です。しかし、実体がその運命の開花を妨げます。運命は、良いものであり、変える必要はありません。ですから、実体を良くする必要があります。

実体を引き上げるには、神の教えを学び、自身の人格、品性を磨くことです。教えを学ぶだけでなく、それを謙虚に実践できるように祈願し、真実の愛に生きる自分を目指すのです。

祈願を重ねて、神魂のご守護を受けていないと、人は実体に流されてしまいます。教えを学ぶ中から神魂を感じ、気付いたことを祈願とともに実践していくところに、真実の愛に生きる人へと近づいていきます。そのような人になること

れば、愛が返ります。愛は不可欠です。

人の心に愛を育てるのは、家庭です。ですから、家族で教えを学び、真理に生きる家庭を築くのです。家族で教えに触れることは、開運するために欠かせません。家族で教えの実践に努めれば、正しい関係ができ、自然と心が重なって、愛が形となっていきます。真の愛と純の愛の調和が取れた家庭となります。

親であれば、子供に無償の愛で触れるのは当然です。それを感じ、子供も愛で応えるでしょう。見返りを求めない心の触れ合いに、人の心は安心し、生きる自信を深めていくのです。

家族そろって教えに触れ、真理に沿う生き方ができれば、人は誰も周りの愛に支えられ、また自分も愛に染める存在となれます。周囲を啓蒙けいもうしていく人となります。自身の存在が生きるのです。

得徳の真理に気付く、悟りを得て、神の手中、人生を完成させていきましよう。道を守れば光ひかりが通る時代、道の真理に生きることです。

令和元年9月23日 神魂誕生記念祭

神 示

今日^{今日} 世界は 「真理」を軸に あるべき姿に戻り始めている
ますます「真理」に悟りを得て

社会に奉仕せんと「生きる」^姿人が目立ってゆく

信者に申す

神が使者を通して 世に示す「教え」を 家族で学び

「真理」に重なる家庭を築く 努力を欠いてはいけない

「教え」が家族の心を一つに重ね

社会の変化に「心」^{人生}のまれずに

日々^{にちじち}生きがいあふれる人生を歩む^{人間}人を育てる

新たに迎える時代は

「運命」の力を磨き 引き出し 「生きる」^{人々}人が

社会を「正道」へと導いてゆく

信者の自覚 意識を強く持ち

神魂に「心」^{運命}重ねて生きる^{信念}思いが

奇跡を生み 運命に重なる人生へと導く

「人生」――

神の手の中 「運命」の力を信じ

「真理」に気付きを得て 「奉仕」に生きる^{人間}人のみが

体験できる^{生命}命の歩みと申す

↓ことが必要なのです。

そこで、神は信者に対して、あらためてご指導くださいました。それは、神の教えを家族で学び、真理に重なる家庭を築けるように努力することです。家族そろって教えで生きる努力をしないと、やがて悔いることとなります。気付いたときに、このようなはずではなかったと後悔しないように、今気付き、努力することが大切です。

家族で教えを生かし、環境の変化に心

一年の信者の歩みは、一月一日祈願祭に始まり、九月二十三日神魂誕生記念祭から十一月十五日聖日記念祭に至る光寿信者参拝時を迎えて、自分自身の心の成長を神魂に報告、御礼です。同時に、時の流れは、次の年に向けた新たな歩みへと進んでいきます。

今、世界は、真理を軸とする本来あるべき姿に戻り始めていると、神は言われます。物事は、一人一人の自我で回るものなどありません。無理やりに通した物事は、うまくいったように思えても、必ず行き詰まっていきます。真理が軸にならないからです。

世の中は、真理に気付き、与えられた自身の力で社会に貢献しようとする人が増えていくはずと、神は言われます。真理に沿って回る時代になるのです。

だからこそ、物事の道理を踏まえ、社会と正しく関わらないと、時代の変化に流されてしまいます。つまり、自分自身の品格を磨き、持って生まれた力を多くの人のために生かして、社会と関わる

道へ導いていくと、神は言い切られています。そのような人が光るのです。

教えを学んでいけば、今自分がやるべきこと、これからやっていくべきことが見えてきます。そこに、多くの人々の役に立ち、毎日が生き生きしたものになります。

神の教えを知った信者であれば、物事の道理を踏まえ、的確に分別していけるように、祈願で神魂と心を重ねて暮らしましょう。神魂のご守護の中であれば、心が安定して、運命に重なる人生が歩めます。神魂に守られている自覚が、運命に重なる人生を歩む自信や誇りにもなります。

人生は、神から与えられた運命の力を信じ、真理に沿って奉仕の心で生きるところに、生きがい得られます。だからこそ、自身の運命の力を信じ、神の教えを学ぶ中から気付き、悟りを深めて、道を守った生き方をするのです。それが、人としての正しい道、生命の歩みなのです。